

市民への医療情報提供の実践的取り組み - 医学・医療情報を扱う図書館として -

杉本節子

大阪市立大学大学院

政府、新聞、テレビ等の各種マスメディアを始め、インターネットの関連サイトでは、日々、医療・健康情報が取り上げられ、情報発信が行われています。一方、一般市民・患者向けに医療情報を提供するもっとも身近な情報機関として、患者図書室、患者情報室、病院図書館、大学の医学図書館、看護系図書館、公共図書館等が様々な医療情報提供を行い始めています。

このワークショップでは、医療情報を提供する図書館に視点をあて、先進的な取り組みや直面する問題点などを参加者の皆様と一っしょに議論したいと考えて企画しました。

市民・患者が気軽に利用でき、利用者の求める的確な資料を提供するためには、図書館間の連携や、医療従事者との連携も必要です。連携の重要性は理念としてはわかっているも、いざ実践となると関係機関の調整が必要となり、実現に至っていないのが現実です。資料を購入するための予算確保や適切な図書の選書も特に重要となってきます。また、図書館員が身につけるべきスキルアップも必要でしょう。いろいろな切り口で活発な意見交換ができればと思っています。京都南病院の山室眞知子氏、高知医療センターの橋田圭介氏、聖路加看護大学看護実践開発研究センター るかなび：聖路加健康ナビスポットの石川道子氏から現状、院内、院外の連携の必要性、その他、課題や問題提起をしていただいた後、参加者の皆様と意見交換を行い、問題整理や解決の方策などを参加者の皆様と一緒を考えたいと思っています。ぜひ、ご参加よろしくお願ひします。なお、後日ワークショップ報告書を作成する予定です。

ワークショップ「市民への医療情報提供の実践的取り組み - 医学・医療情報を扱う図書館として」

- 16:00 - 16:15 ワークショップの趣旨説明等
- 16:15 - 16:30 京都南病院 山室眞知子氏
- 16:30 - 16:45 高知医療センター 橋田圭介氏
- 16:45 - 17:00 聖路加看護大学看護実践開発研究センター るかなび 石川道子氏
- 17:00 - 17:05 休憩
- 17:05 - 17:40 問題点を整理しながら参加者全員と意見交換をする。
山室氏、橋田氏、石川氏にアドバイザーをお願いする。
- 17:40 - 17:50 まとめ

参考

医療情報をめぐる最近の政府の動向

- 1 厚生労働省 2003年8月 医療提供体制の改革ビジョン - 「医療提供体制の改革に関する検討チーム」まとめ -

骨子の一番目に医療に関する情報提供が提案され、その(3)に根拠に基づく医療(EBM)の促進が挙げられています。計画スケジュールとしては、平成16年度より、一般市民・患者向けに診療ガイドラインが試験提供されています。

- 2 政府 2005年2月 IT戦略本部「ITパッケージ2005-世界最先端のIT国家の実現にむけて - 」

「...住民に身近な地域の情報拠点として、医療・法律・ビジネスに関する情報提供等の多様な図書館サービスの促進・・・」とあります。

- 3 厚生労働省 平成17年7月 「平成18年の医療改革を念頭においた医療制度の見直しの方向性」(中間発表)の内容の一部

「EBM指向の診療ガイドライン作成が進められてきており、疾病毎に診断・治療方法に関する質の高い情報を得ることが可能になりつつあるが、現状では、(中略)国民一般向けの情報整備については研究途上にある。」また、「患者が主体的に医療に参加する環境の整備を図るためには、合わせて診療情報の提供やEBMの定着を図っていくことも必要である。」としている。

付記

2005年12月10日に公開シンポジウム「これからの医療を考える! - 「患者図書館」/「患者情報館」のさらなる発展をめざして - 」を開催し、その報告書が最近やっと完成しました。このシンポジウムの基調講演、事例報告などを通じて医療情報を取り巻く問題点や解決方法が提示されました。この参加者企画にご参加の皆様には、この公開シンポジウム記録を配布する予定です。ぜひ一度お目を通していただけたら幸いです。